

---

## 調査検討委に異論なし 秋田・障害児教育施設の統合

---

秋田県が盲、ろう、養護学校と療養施設を一体的に整備する「こども総合支援エリア(仮称)」について、構想内容を議論する「調査検討委員会」が14日、秋田市で開かれた。県議会や一部の施設関係者には施設の統合や建設場所に批判的な意見もあるが、検討委では異論は出ず、構想は実現に向け動きだす公算が大きくなった。

障害児の教育施設を統合し、医療機関など一カ所に集中させる構想について、委員からは「重複障害の子どもには、学校と病院の連携は当然の支援」「単独障害を想定した既存の教育システムはもう限界」など、歓迎する声が相次いだ。

建設候補地については、県が有力視する「南ヶ丘ニュータウン」(秋田市)を約半数の委員が推薦。残る委員も「構想の早期実現が重要」と指摘し、「秋田市以外にも同時にランチを設けては」との提案もあった。

構想をめぐるっては、県が開いた県民との意見交換などで、「施設統合は障害児が社会と接する機会をなくす」「秋田市ではなく、県南や県北に整備すべきだ」との批判も寄せられていた。検討委は障害児の保護者、医師、養護学校長ら18人で構成。今月31日の最終会合で、構想に対する検討結果を取りまとめ、寺田典城知事に報告する。

2006年07月14日金曜日

---